日本リスクマネジメント学会

創立30周年記念シンポジウム開催

リスクマネジメント研究の新たな報告も

日本リスクマネジメント学会の創立30周年記念シンポジウム「個人と組織を取り巻くリスクの科学的管理―理論的研究から実践的展開まで―リスクマネジメント研究の〝老舗〟による30年」が、3月30日午後1時30分から関西大学千里山キャンパス100周年記念会館ホールで会員140人余が出席して開催された。第1部は、リスク「マネジメント」研究の発展として、白田佳子筑波大学教授（同学会常務理事）が「倒産予防の科学としてのリスクマネジメント―RMの出発点」、上田和勇専修大学教授（同学会理事長）が「保険管理から企業価値創造型リスクマネジメントへ―RM研究の変遷」、藤江俊彦千葉商科大学教授（同学会理事）が「企業不祥事とクライシス・コミュニケーション―RM研究の課題」について報告。これらを受けて、奈良由美子放送大学准教授、植藤正志追手門学院大学教授、川本明人広島修道大学学長がコメントを発表した。第2部では、日本リスクマネジメント学会の歩みと社会的貢献として、竹本恒雄富士火災顧問（同学会評議員会会長）、大城裕二岡山商科大学教授（同学会副理事長）、吉川吉衛大阪市立大学大学院教授（元同学会理事長）がスピーチを行った。また、日本リスク研究学会会長の土田昭司関西大学社会学部教授がゲストスピーチを行った。

続いて研究報告に移った。

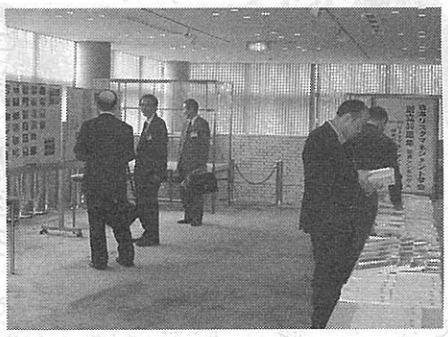
白田氏は、リスクマネジメントの究極の目的である企業倒産のメカニズムについて解説。上田氏は企業価値を伸ばすものとして無形資産、特に企業文化や企業倫理、計量化に困難な評判リスクの対応などを課題として挙げた。藤江氏は船場吉兆などの事案にみられる企業不祥事のメディア会見と報道の影響を解説した。

第2部のスピーチでは竹本氏が、「企業の利益主義優先は不祥事を根絶できない」とした上で、コンプライアンスの重要性を指摘、「企業は単に法令にある条文や社会的ルールを守るだけではなく、社会と共生することが必要である。企業倫理、コンプライアンスを論ずるとき、コーポレート・ガバナンスの考察が必要」と見解を述べた。

土田日本リスク研究会会長は、同研究会の概要に触れた後、私見として上で、「わたしもこの日本リスクマネジメント学会に入会させてもらい、亀井利明、克之の両教授もわたしたちの学会に入会された。今後は両学会で互いに交流をしたい」と述べた。

講演会では、亀井利明関西大学名誉教授が、「ソーシャル・リスクマネジメントの展開」として、昨年10月に日本リスクマネジメント学会創立30周年を記念して刊行した同氏の著書「ソーシャル・リスクマネジメント論」に記している亀井危機管理論について解説した。

なお、会場ロビーでは、学会会報誌創刊号の「危険と管理」をはじめ会報や資料、「リスクマネジメントの変遷と展望」「亀井利明先生の足跡」などの写真展、同学会学術表彰として学会奨励賞や最優秀賞、RM文学賞受賞の作品などが展示されていた。



会場ロビーには会報・資料など展示

亀井氏

上田氏

シンポジウムには会員ら140人余が出席した

シンポジウムの総合司会は亀井克之同学会事務局長（関西大学総合情報学部教授）が務めた。

開会あいさつで上田和勇理事長は、「今から30年前の1978年にこの関西大学で日本リスクマネジメント学会の創立大会が行われ、人間でいえば30歳になった。この30年間を見ると、リスクは時とともに変化し、時もリスクとともに変化した。設立当初は学術的問題を取り上げ90年代には規制変化、経済環境の変化に伴う問題提起、2000年代に入ると企業の不祥事、企業統治、企業の社会的責任などのテーマを取り上げた。30歳のリスクマネジメント学会は、すくすくと育ったのではなく、財政的にも苦労を重ねてきた」と30年間の軌跡を述べるとともに、「今こそ社会に対し発言するチャンスである。今後の発展に皆さんの協力を願いたい」と述べた。

次に会場を提供した安部誠治関西大学副学長（関西大学商学部）、徳山善昭富士工業、韓国から駆けつけた徐聖錫釜山経済商科大学教授の各氏が祝辞を述べた。

富士火災

「富士火災アートスペース」

2008年度作品を選定

富士火災は、CSR活動の一環として実施している芸術・文化振興活動「富士火災アートスペース」の2008年度作品を選定し、4月からの1年間、関西国際空港4階国際線コンコースと富士火災大阪本社ビル、東京銀座ビル1階に設置している「富士火災アートスペース」に展示する。

08年度の作品募集には、全国から75点が寄せられ、京都造形芸術大学教授の中ノ堂一信氏、大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長の出川哲朗氏を審査員として選考会を開催した結果、6作品を選出。3月18日には入選者授賞式を開催し、ビジャンコスロシャヒ代表執行役社長CEOが各受賞者に記念の楯を授与した。

これら6作品は、関西国際空港で4カ月間展示し、その後、同社大阪本社ビルと銀座ビルの1階ロビーに展示される。

関西国際空港の展示スペースは、4階国際線コンコース、チェックインカウンター反対側の待ち合い席付近で、通行量の多い道路横のスペース。

◇

富士火災では、1995年から新進造形作家の育成[illegible]芸術・文化活動を支援し、創造性溢れる人々の心が豊かな社会の推進に寄与することを目的に「富士火災アートスペース」を設置している。

海難審判協会

「海難と審判」第158号を発行

(財)海難審判協会は「海難と審判」第158号を発行した。

今号では巻頭言として、海上技術安全研究所運航・システム部門長・田村兼吉氏の「操船リスクシミュレータが目指すヒューマンファクターの解析」を掲載。

特集として「狭水道の海難」（高等海難審判庁）を、審判研究では「漁船海難の裁決例（その10）」（海難審判協会）を掲載。

資料では「MAIAインフォメーション」で海難と審判に関する情報を掲載している。

問い合わせは、海難審判協会（電話03・3512・8140）まで。

保険関係者待望の書、好評発売中!!

保険募集のコンプライアンス

B5判　241ページ　定価2,940円(本体2,800円+税5%)送料340円　㈱ワールド・ヒューマン・リソーシス保険研究チーム編　(平成16年3月刊行)

―保険募集実務の知識・経験豊富なワールド・ヒューマン・リソーシスの自信作―

本書の3大特色

1. 生命保険・損害保険の両方を対象
2. 募集実務に焦点を合わせ、募集関係者全員の業務に役立つ内容
3. ルール違反例を数多く列挙し、再発防止の判断材料を提示

―内　容―

Ⅰ　コンプライアンス実践の基礎
Ⅱ　保険業法の規定上守るべき法令・規則
Ⅲ　代理店委託契約書関連
Ⅳ　保険契約の実務
Ⅴ　保険事業に関係の深い法律の規制
〈参考資料〉　関係法令の重要条文(抜粋)

(株)保険毎日新聞社　〒101-0032　東京都千代田区岩本町1－4－7　TEL 03(3865)1401　FAX 03(3865)1431